

4 社連携による持続可能な物流を目指す取組み

自動運転トラックと貨物鉄道を活用した共同輸送実証
9 月 8 日より開始



エスビー食品株式会社、オタフクソース株式会社（以下「オタフクソース」）、株式会社エバラ物流（以下「エバラ物流」）および株式会社 T2（以下「T2」）の 4 社は、2026 年 9 月 8 日より、自動運転トラックと貨物鉄道を組み合わせて輸送するモーダルコンビネーションの実証を関東ー中国エリア間で行います。物流業界で初めて※1 となる、モーダルコンビネーションによる複数社の製品の共同輸送を通じて、トラックドライバー不足に対応できる効率的な輸送モデルが実現可能かを検証します。

※1 自動運転トラックと貨物鉄道を組み合わせて輸送するモーダルコンビネーションとして、複数社の製品を往路・復路で分けて共同輸送する事例として。2026 年 9 月 3 日時点の WEB 調査（T2 調べ）

■取組みの概要

トラックドライバー不足が深刻化するなか、トラック・鉄道・船舶・航空機など複数の輸送手段を組み合わせる「モーダルコンビネーション」は、持続可能な物流を実現する手法のひとつとして期待されています。これを受けて、2027 年度以降にレベル 4※2 自動運転トラックによる幹線輸送の開始を目指す T2 と、日本貨物鉄道株式会社（以下「JR 貨物」）は、T2 が開発したレベル 2※3 自動運転トラックと、JR 貨物の貨物鉄道を組み合わせたモーダルコンビネーションを 2025 年より開始しました※4。

※2 レベル 4：特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

※3 レベル 2：ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転

※4 参考：<https://t2.auto/news/2025/0623.pdf>

今回、当社とオタフクソース、そして両社の輸送を請け負っているエバラ物流が本取組みに新たに参画し、2026年9月8日から4日間、関東ー中国エリア間の約850kmの区間を往復し、モーダルコンビネーションの実証を行います。T2がJR貨物と共同開発した31フィート共用コンテナ※5を用いて、往路は当社が関東エリアで製造している「赤缶カレー粉」「本生本わさび」などの商品を、復路はオタフクソースの「お好みソース500g」をそれぞれ輸送し、輸送品質やオペレーションを検証します。

※5 モーダルコンビネーションの際に貨物列車からT2のトラックへ直接載せ替えが可能な共同コンテナ

参考：https://note.com/t2_auto/n/5230d792147f

往路は、当社物流センター（埼玉県）からエバラ物流関西第2物流センター（大阪府）までをT2の自動運転トラックで運び、その後、空の共用コンテナを吹田貨物ターミナル駅（大阪府）から広島貨物ターミナル駅（広島県）までJR貨物の貨物列車、オタフクソースの本社工場（広島県）まで通常のトラックで輸送します。

復路は、オタフクソースの本社工場で共用コンテナに荷物を積んだ上で、広島貨物ターミナル駅まで通常のトラックで運び、広島貨物ターミナル駅から吹田貨物ターミナル駅までを貨物列車、吹田貨物ターミナル駅からエバラ物流川崎物流センター（神奈川県）までの輸送をT2の自動運転トラックが担います。なお、レベル2自動運転区間※6は、往路・復路ともに東名高速道路・綾瀬スマートIC（神奈川県）ー名神高速道路・久御山JCT（京都府）間の約410kmです。

※6 安全確保が必要な状況などではドライバーが一時的に運転操作

往路



復路



本実証を契機に、当社、オタフクソースおよびエバラ物流は、レベル4を見据えて実証を重ね、T2が実証を経た企業に定期的な輸送を提供する商用運行への参画も視野に連携を深めてまいります。

各社ホームページ

オタフクソース株式会社：<https://www.otafuku.co.jp/>

株式会社エバラ物流：<https://www.ebabutsu.jp/>

株式会社T2：<https://t2.auto/>



4社連携による取組みを通じて、
トラックドライバー不足にも対応できる持続可能な物流の実現を目指します。